

あいうえお

スポーツ中継一筋で知られた名物男・元NHKアナウンサーの鈴木文弥さんは2013年1月20日午後6時13分、急性肺炎のため、神奈川県内の病院で亡くなった。88歳だった。現在、生きていれば92歳になる。

「スポーツは筋書きのないドラマ」と言い、精魂をこめたスポーツ中継は人々の心を引き寄せたものです。

その彼は58歳で脳内出血で倒れ、言葉を失う。アナウンサーにとって声・言葉は命そのものです。もう一度、声を取り戻したい！ スポーツ中継に戻りたい！ 必死に発声練習を繰り返し、努力努力のリハビリで言葉を取り戻したのです。

その後、亡くなる88歳まで30年間、スポーツ中継で活躍しました。

生前、鈴木文弥さんが言っていたことは、

□ **人と同じことをやっているのは、人と同じことしかできない**

人一倍の努力を繰り返し、自分を磨こう

□ 人生にとって「**あいうえお**」は大切。

「あ」は、**相手の立場に立って考えよう**

「い」は、**嫌なことを進んでやろう**

「う」は、**上を見たらきりが無い**

「え」は、**笑顔を自分で作れ**

「お」は、**お礼の気持ちを忘れない**

1964年の東京五輪では、スポーツ放送で歴代最高視聴率を記録した女子バレーボール決勝日本-ソ連戦を「いよいよ金メダルポイントであります」と実況、そののち流行語になった。

また、同五輪開会式のラジオ放送では、秋晴れの空を「開会式の最大の演出家、それは人間でもなく、音楽でもなく、それは太陽です」と表現し、話題を呼んだのです。

高校野球では、延長18回引き分け再試合となった69年夏の甲子園決勝、松山商業対三沢高校のラジオ実況を担当しました。